

日本語英国教会ニュースレター

第92号 2017年12月発行

♪ きよしこの夜

司祭 ヨハネ 井田 泉

クリスマスの準備をする<アドベント（降臨節）>に、礼拝堂には4本の赤いろうそく（アドベント・クランツ）が置かれ、毎週ひとつずつ光を増やしていきます。これは、私たちを照らす大きな愛の光であるイエスさまが来られるのを感じつつ、喜び迎えることをあらわします。

「アドベント」とは元々「到来」という意味です。救い主がひとたびこの世界においてになったことを祝い感謝しながら、やがて再びおいでになってわたしたちと世界の救いと平和を完成してくださるのを待ち望む、という意味がこの言葉にはこめられています。

♪ きよしこの夜 星は光り
救いの み子は まぶねの中に
眠りたもう いとやすく

よく知られたクリスマスの歌ですが、その情景を思い浮かべてみましょう。…… 澄みわたる美しい夜、星が輝いています。飼葉桶の中でイエスさまはすやすやと眠っておられます。

♪ きよしこの夜 み告げ受けし
まきびとたちは み子のみ前に
ぬかずきぬ かしこみて

天使のお告げを聞いた羊飼いたちは、イエスさまの前にひれふして拝みました。この上なく清らかで優しく温かく尊い方に、お会いできた喜びに満たされます。

♪ きよしこの夜 み子の^え笑みに
恵みの み代の あしたの光
かがやけり ほがらかに

赤ちゃんのイエスさまがにっこりとほほえみました。それを見た人たちはともしあわせな気持ちになりました。きっとこのほほえみから神さまの愛が広がって、世界に平和が訪れるでしょう。闇がどんなに深くても大丈夫。ここに救いの光があるのです。みんながしあわせになる新しい時代の夜明けの光が輝いています。

降誕の主イエスさまの恵みの光が皆さまの上に輝きますように。
(日本聖公会奈良基督教会司祭)

注：Adventskranz Kranzはドイツ語で「輪」の意味



◆◆◆◆◆ 前回の報告 ◆◆◆◆◆

11月の集まりには、布山さんと黎（ライ）さんそれぞれお子さんを連れて初めて参加され、大人17人と子供9人が集まりました。

いつもの様に、親子合同で指を使った数え歌や”すんばらしき主イエスの愛は”の子供賛美歌を歌ってウォームアップした後、友紀さんがAdvent降臨節のお話をしてくださいました。

降臨節とは、イエス・キリストのご降誕を待ち望む時期です。

最近街角でよく見かけるパディントン2の映画の広告がありますが、たった一人でペルーから移民としてやって来て、誰も知らず行く所もないパディントンは、**Please look after me** という札を首から下げ、誰かに気がついてもらえる事を辛抱強く待っていて ブラウン家の一員に迎え入れられます。パディントンは失敗も一杯あるけれど 持前の礼儀正しさと優しさを通して 周囲の人々に喜び

をもたらしていきます。そのことは、イエス様がこの世にもたらした「光」を思い出させます。私達それぞれも光になって 周囲に喜びをもたらすことができますよう。

この後子供達は、可愛いクリスマスのデコレーション制作をしました。大人は引き続いて礼拝。

礼拝のお話では、まず、毎週日曜日の教会礼拝の為に選ばれている聖書（旧約、使徒書、福音書）の朗読箇所には共通するテーマがあると説明がされました。旧約は私たちの礼拝の中では読みませんでしたが、当日の朗読箇所はゼファニア書（1章7節）で、その箇所は、使徒書すなわちテサロニケ1 5章2節にある「主の日」と対応しています。救い主がこの世にやって来られ、そして私たちの救いがそこで完成するというのが、伝統的に長く続いていた信仰でした。旧約聖書では主の日を待ち望む事が大変大切なこととされました。

マタイの福音書25章14-15・19-26節の”タラントンのたとえ話”も、救いの日が来るのを待っている我々の姿勢について描かれています。主イエスのご降誕を待つ、この時期に私達それぞれ自らを振り返り、本当に大切な働きを忘れていないだろうかと改めて聞きたいと思います。人それぞれに授かった千差万別な才能を生かし、与えられた使命を果たす、あるいはやってみようと努力する、努力しつづける事が、その待っているという姿勢において、最も大切なことです。共に祈りながら 励まし合い、努力し続けていきましょう。

遠藤淑子、ジョンソン友紀



Pilgrim Course から

11月19日の礼拝前、そして12月5日（火）それぞれ異なる方々と「聖霊とはなんだろう」をテキストに従って学びました。下記は学びを始める前の祈りの中、読み上げた詩編の一部です。

詩編 第51編12節から15節まで

神よ、わたしの内に清い心を創造し、
新しく確かな霊を授けてください。
み前からわたしを退けず

あなたの聖なる霊を取り上げないでください。
み救いの喜びを再び わたしに味わわせ
自由の霊によって支えてください。

もし、聖霊のうちに私たち自身を根差すならば、私たちの生活の中に良き実を結ぶでしょう。If we root ourselves in the Holy Spirit—
やっぱり 『根っこ』、どこに根差すのか、大切だと思いました。
ご参加、あるいはテキストご希望の方は お知らせください。



セントポール大聖堂にて

セントポール大聖堂では Circle of Prayer として年間一回、当日4回ある各礼拝の中で、日本語英国教会そして Commissioned Lay Minister の名前が読み上げられます。11月14日 Evensong に有志二人と共に参加しました。当日は聖堂付きの聖歌隊の素晴らしい歌声とお祈りによって 励ましを一杯いただきました。日本語英国教会のメンバーそれぞれの名前を黙祷の中で覚えて祈りを捧げました。今年11月27日、任命を受けて6年目になり、主のみ恵み、そして皆様のご支援に感謝をしています。



12月3日 St Martin's クリスマスバザー

バンディさんご一家が引っ越しの為に参加できませんでしたが、事前に多くの寄付品をいただきました。また、お手伝いに来てくれた方々からも寄付の品を沢山いただきました。お手伝いして下さった千鶴さん、恭子さん、小百合さん、さやかちゃんに感謝しています。広告を見て北ロンドンからいらした方も含めて日本人の来訪者がいつもよりもあったように思えます。クリスマス用含めて手芸品も初めて売ってみました。(一部の手芸品は私の地元の教会の方々による手製でした) 皆様のご協力を得て、私たちのテーブル

セールからは、お陰様で 145.61ポンドの売り上げがあり、
St Martin's 教会へ寄付することができました。



(以下メールで流した方々には重複しますが、ご参考まで)

今年の **Advent Sunday** は12月3日です。教会には **Advent Candle** が備えられ、日曜日ごとにキャンドルを次々に増やして灯していきます。各教会によって、多少 それぞれのキャンドルの意味合いが異なりますが、多くの教会では、

- 最初のキャンドル **Hope** 希望 **Patriarchs** 先祖
 - 二番目のキャンドル **Peace** 平和 **Prophets** 預言者
 - 三番目のキャンドル **Joy** 喜び **John's Baptist** 洗礼者ヨハネ
 - 四番目のキャンドル **Love** 愛 **The Virgin Mary** 処女マリア
- そして 真ん中のキャンドルが、クリスマスの日 に イエスさまを象徴して 灯されます。

日本語英国教会 St Martin's West Acton

12月17日 (日曜日)

午後3時から 5時まで

クリスマス礼拝

イエスさまの誕生を祝い、

共に祈り、歌いましょう。

(誕生劇も寸劇ですが予定しています)

Let's celebrate Jesus' Birthday together
through prayer and songs in Japanese and English

司式：ジョンソン友紀

礼拝後は 特別親睦会 ティータイム

(有志の方々に持ち寄りをお願いします)

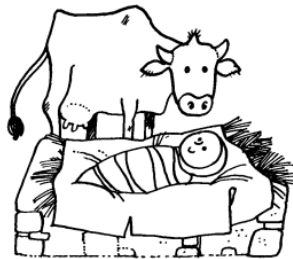
◆◆◆◆◆追記◆◆◆◆◆

ホームレスの人々の自立を助ける為に「The Big Issue」という雑誌が ちまたで Vendor と認証されたホームレスの方々によって売られています。昨年発刊 25 周年を迎えた、この雑誌には、以前に比べて、最近は読み応えがある盛り沢山の記事があることを知り、感心しています。

夫が買った、11 月半ば発行の The Big Issue の表紙にパディントンがあり、タイトルは 'Migrant British Icon - ONE OF US 'Paddington and the New Spirit of Christmas。パディントンを主体にして、現在の移民問題について考えられる記事が とても興味深いものがありました。これからホームレスの方々にとっては厳しい季節になります。ホームレスの方々そして彼らの支援活動を覚えて主のみ守り、励ましと愛が与えられますよう祈りましょう。

余談ですが、30 年前に英国に来た時、このパディントンのように英国の習慣が分からないことが多々あり、共感を感じながらも英語の自習も兼ねて図書館から借りて読んだことがあります。

パディントンは創作されて来年 60 周年になるとのことです。作家マイケル ボンドは、戦争中にヨーロッパから避難してきた子供達 Kindertransport やロンドン空襲の間に疎開した子供達が、僅かな持ち物を持って、それぞれカードをぶら下げていたのを目撃した経験が パディントンの話の基になっていることと記事に書いてありました。



ご降誕の主の喜びがいつも私たちと共にありますよう

Commissioned Lay Minister : ジョンソン友紀
120 Carhorse Lane REDDITCH B97 6SZ
携帯 07503 893880
yukifunakawa@btinternet.com
ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>